

学位に付記する専攻分野ごとの「卒業の認定に関する方針」  
及び「教育課程の編成及び実施に関する方針」

1 短期大学士（工学）

① 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本大学短期大学部（船橋校舎）では、2年以上在学し、建築・生活デザイン学科、ものづくり・サイエンス総合学科（機械工学分野、電気電子工学分野、情報科学分野）及び生命・物質化学科の短期大学部学則に定める各所定の授業科目を履修して、所定の単位を修得し、以下に定める要件を満たした者に対して卒業を認定し、短期大学士（工学）の学位を授与します。

- (1) 建築・生活デザイン学科、ものづくり・サイエンス総合学科（機械工学分野、電気電子工学分野、情報科学分野）及び生命・物質化学科の各学位プログラムの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力を身に付けている。
- (2) 人文科学、社会科学、芸術・文化など様々な知識を学ぶことを通じて、社会人として身に付けておくべき教養とは何かを理解している。（「日本の特質を理解し伝える力」、「多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力」、「豊かな知識・教養に基づく高い倫理観」）
- (3) スポーツ等を通じて、健康的に社会生活を送るための基本的な生活習慣を身に付けている。（「自己管理能力」）
- (4) 国語、英語の語学力に関する客観テストを受験し、自らの語学力を正確に把握している。（「コミュニケーション力」）
- (5) 専門教育科目の学修に必要な数学・物理学に関する基礎知識・技能を修得している。（「知識・理解」）
- (6) 科学・技術系報告書の作成の基本を身に付けている。（「論理的・批判的思考力」）

② 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

日本大学短期大学部（船橋校舎）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力を身に付けさせるため、総合教育科目（必修科目、教養教育部門、言語教育部門）、専門教育科目（必修科目、共通基礎教育部門、共通専門教育部門、分野別専門教育部門、キャリア・職業教育部門）及び補充教育科目を体系的に編成し、講義・演習・実験・実習を適切に組み合わせた授業科目を開設します。

教育内容・方法及び学修成果の評価については、以下のとおりです。

< 教育内容・方法 >

- (1) 初年次教育の一環として、入学の目的及び学修の目的・目標の明確化を図り、大学生活への不安を解消し、将来の夢や希望を育み、学習への動機付けを高め、学習意欲の向上を図るとともに、社会的・職業的自立に向けて、必要な知識・態度を育むことを目的として、必修科目「短大入門講座」を1年前学期（前半期）に開設する。
- (2) 総合教育科目（教養教育部門）では、理系・文系の学問領域にとらわれない総合的な知識及び文化・社会・自然との関わりについて教授するとともに、論理的な思考力及び表現力を養成する一助となるよう、広範な分野の科目を開設する。

あわせて、健康的な社会生活を送るのに必要な基礎を教育・指導するため、スポーツ系科目を開設する。教養教育部門の科目は、必要な科目を自由に選択できるように1・2学年共通に開設する。

- (3) 総合教育科目（言語教育部門）では、学修や職業生活、社会生活を支える国語、及び異文化コミュニケーションツールとしての英語での表現力を養成するための科目を開設する。英語科目では習熟度別クラス編成を行い、1年前学期から段階的に学修を進められるように適切な学期配置を行う。
- (4) 建築・生活デザイン学科及び生命・物質化学科では、専門教育科目（必修科目、共通専門教育部門、分野別専門教育部門）を学修する上で基盤となる数学・物理学の基礎科目を専門教育科目（共通基礎教育部門）の中に開設する。

ものづくり・サイエンス総合学科では、専門教育科目（必修科目、分野別専門教育部門）を学修する上で基盤となる数学・物理学の基礎科目を専門教育科目（分野別専門教育部門「総合科学分野」）の中に開設する。1年前学期を前半期・後半期に分割し、週2回の授業を行うこと（4学期制）により、前学期終了までに必要な基礎知識・技能が修得できるようにする。

3学科共に基幹科目については、講義科目だけでなく、演習科目・実習科目も併せて開設する。習熟度クラス編成を行い、補充教育科目と連動した体系的な基礎教育を行う。

- (5) 数学・物理学を中心として、専門教育科目（共通基礎教育部門、分野別専門教育部門「総合科学分野」）の学修を補うための科目を補充教育科目の中に開設する。1年前学期を中心に、習熟度不十分な学生を対象とする、いわゆる「底上げ教育」のための科目を開設する。1年後学期からは、習熟度の高い学生を対象とする「引き上げ教育」のための科目を併せて開設する。
- (6) 建築・生活デザイン学科、ものづくり・サイエンス総合学科（機械工学分野、電気電子工学分野、情報科学分野）及び生命・物質化学科では、各学科・学位プログラムの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力を身に付けさせるために必要な科目を専門教育科目（必修科目、共通専門教育部門、分野別専門教育部門、キャリア・職業教育部門）の中に開設する。

## ＜ 学修成果の評価 ＞

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力及びこれらの総合的な活用力の修得状況については、以下の方法により評価を行います。

- (1) 各授業科目の成績評価は、シラバスに明示する「学修到達目標」及び「成績評価の方法・基準」に基づいて行う。理解度確認テスト、小テスト、レポート、プレゼンテーション、作品など、授業形態や授業内容・方法に即した多面的な評価により、学修到達目標に対する学修到達度を判定する。
- (2) 各学科が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める資質・能力の評価は、全学科の必修科目である「卒業研究」の成果及び各学科が定める適切な方法により行う。
- (3) 学位に付記する専攻分野ごとの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める資質・能力（各学科が定めるものを除く）については、外部テストなどの客観的指標その他の適切な方法に基づき評価を行う。

## 2 短期大学士（理学）

### ① 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本大学短期大学部（船橋校舎）では、2年以上在学し、ものづくり・サイエンス総合学科（物理学分野，数学分野，総合科学分野）の短期大学部学則に定める各所定の授業科目を履修して，所定の単位を修得し，以下に定める要件を満たした者に対して卒業を認定し，短期大学士（理学）の学位を授与します。

- (1) ものづくり・サイエンス総合学科（物理学分野，数学分野，総合科学分野）の各学位プログラムの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力を身に付けている。
- (2) 人文科学，社会科学，芸術・文化など様々な知識を学ぶことを通じて，社会人として身に付けておくべき教養とは何かを理解している。（「日本の特質を理解し伝える力」，「多様な価値を受容し，自己の立場・役割を認識する力」，「豊かな知識・教養に基づく高い倫理観」）
- (3) スポーツ等を通じて，健康的に社会生活を送るための基本的な生活習慣を身に付けている。（「自己管理能力」）
- (4) 国語，英語の語学力に関する客観テストを受験し，自らの語学力を正確に把握している。（「コミュニケーション力」）
- (5) 専門教育科目の学修に必要な数学・物理学に関する基礎知識・技能を修得している。（「知識・理解」）
- (6) 科学・技術系報告書の作成の基本を身に付けている。（「論理的・批判的思考力」）

### ② 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

日本大学短期大学部（船橋校舎）では，卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力を身に付けさせるため，総合教育科目（必修科目，教養教育部門，言語教育部門），専門教育科目（必修科目，分野別専門教育部門，キャリア・職業教育部門）及び補充教育科目を体系的に編成し，講義・演習・実験・実習を適切に組み合わせた授業科目を開設します。

教育内容・方法及び学修成果の評価については，以下のとおりです。

#### < 教育内容・方法 >

- (1) 初年次教育の一環として，入学の目的及び学修の目的・目標の明確化を図り，大学生活への不安を解消し，将来の夢や希望を育み，学習への動機付けを高め，学習意欲の向上を図るとともに，社会的・職業的自立に向けて，必要な知識・態度を育むことを目的として，必修科目「短大入門講座」を1年前学期（前半期）に開設する。
- (2) 総合教育科目（教養教育部門）では，理系・文系の学問領域にとらわれない総合的な知識及び文化・社会・自然との関わりについて教授するとともに，論理的な思考力及び表現力を養成する一助となるよう，広範な分野の科目を開設する。  
あわせて，健康的な社会生活を送るのに必要な基礎を教育・指導するため，スポーツ系科目を開設する。教養教育部門の科目は，必要な科目を自由に選択できるように1・2学年共通に開設する。
- (3) 総合教育科目（言語教育部門）では，学修や職業生活，社会生活を支える国語，及び異

文化コミュニケーションツールとしての英語での表現力を養成するための科目を開設する。英語科目では習熟度別クラス編成を行い、1年前学期から段階的に学修を進められるように適切な学期配置を行う。

- (4) ものづくり・サイエンス総合学科では、専門教育科目（必修科目、分野別専門教育部門）を学修する上で基盤となる数学・物理学の基礎科目を専門教育科目（分野別専門教育部門「総合科学分野」）の中に開設する。基幹科目については、講義科目だけでなく、演習科目・実習科目も併せて開設する。習熟度クラス編成を行い、補充教育科目と連動した体系的な基礎教育を行う。

1年前学期を前半期・後半期に分割し、週2回の授業を行うこと（4学期制）により、前学期終了までに必要な基礎知識・技能が修得できるようにする。

- (5) 数学・物理学を中心として、専門教育科目（分野別専門教育部門「総合科学分野」）の学修を補うための科目を補充教育科目の中に開設する。1年前学期を中心に、習熟度不十分な学生を対象とする、いわゆる「底上げ教育」のための科目を開設する。1年後学期からは、習熟度の高い学生を対象とする「引き上げ教育」のための科目を併せて開設する。
- (6) ものづくり・サイエンス総合学科（物理学分野、数学分野、総合科学分野）では、各学位プログラムの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力を身に付けさせるために必要な科目を専門教育科目（必修科目、分野別専門教育部門、キャリア・職業教育部門）の中に開設する。

#### < 学修成果の評価 >

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力及びこれらの総合的な活用力の修得状況については、以下の方法により評価を行います。

- (1) 各授業科目の成績評価は、シラバスに明示する「学修到達目標」及び「成績評価の方法・基準」に基づいて行う。理解度確認テスト、小テスト、レポート、プレゼンテーション、作品など、授業形態や授業内容・方法に即した多面的な評価により、学修到達目標に対する学修到達度を判定する。
- (2) 各学科が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める資質・能力の評価は、全学科の必修科目である「卒業研究」の成果及び各学科が定める適切な方法により行う。
- (3) 学位に付記する専攻分野ごとの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める資質・能力（各学科が定めるものを除く）については、外部テストなどの客観的指標その他の適切な方法に基づき評価を行う。